



今年はずっと寒い・・・けど天気良好 2012ヨーロッパ展示会レポート

毎年1月は展示会シーズン。ヨーロッパの展示会めぐりも12年目になりました。日本では手に入れることができなかったり、ヨーロッパならではの天然素材や環境に配慮した商品であったりと小回りを生かして、本物の寝具を独自に輸入しておとどけています。今年はフランクフルト・ケルン・パリの3つの展示会を回ってきました。

ドイツ・ハイムテキスタイル見本市 ミッション：良質の羽毛を探せ

フランクフルトにある広大なメッセ（見本市）会場で開催されるハイムテキスタイル見本市はヨーロッパで最大級。寝具やインテリアが展覧されています。

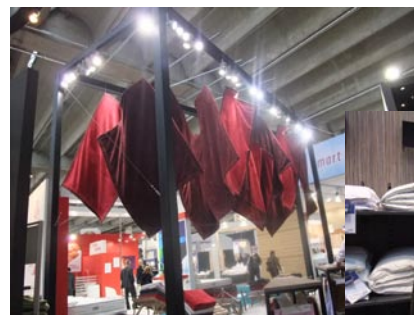
最大の目的はその年に最も良い羽毛を探して買い付けること。ところが、去年の羽毛農場は大変な状態でした。いわれのない動物愛護キャンペーンで、羽毛の質を確保するハンドプラッキング（ハンドピック）が一切禁止されてしまったのです。羽毛は羽根が生え替わる直前にプラッキングすることで、良質な羽毛を確保できるのですが、それができなくなってしまいました。

今回、カウフマン社で手に入れたのは「ベスト・オブ・ポメラニアン」30kg。カウフマン社のポーランド・ポメラニア地方の羽毛は絡みが強いものが多いのですが、今回はその中でもトップクラスの原料です。ダウンボールが大きく絡みも強い最高級の原料といえます。途中のハンドプラッキングを行わず25週育てて採取するために、価格はこれまでより30%以上もアップ。ユーロが安いので、そのままアップとはなりません。ヨーロッパで高品質羽毛は取り合いになっているという状況からは致し方ないようです。



ベストオブポメラニアン

そのほか、毎年IBENA, Steiner, Siurusなどのメーカーブースを回り、新柄や新しい素材について情報をゲット。リトアニアのリネンメーカーのSiurus社は、オリジナルのピラベック羊毛敷ふとんやベッドパッドの夏面に使っているリネンを織ってもらうメーカーですが、160mという小ロットで作ってくれるため、新たに夏用本麻敷パッドの生地を作る予定です。



IBENAのディスプレイ

Billerbeek輸出担当のアンジェリカさん。彼女には長年お世話になってます



ケルンimmCologne家具見本市 ミッション：自然素材のベッドを探せ

ケルンはその語源がローマ帝国の植民地（コロニア）であったことから、ドイツでも最も古い都市。ゴシック様式の大聖堂が有名です。

ここはベッドが目的。現在でもヒュスラーネスト、リラックス、プロナチャーラと自然素材100%のベッドシステムを導入しています。今回はリラックス社で今年の発注についての打ち合わせを行い、新たにハンガリーのメーカーですが、コイルスプリングを木で作って天然素材100%のマットレスを作っているメーカーを見つけました。ヨーロッパでは金属コイルのマットレスはリサイクルの問題と地磁気を乱すという見地から、ほとんど見ることがありません。馬毛やラテックスとのコンビネーションにより寝心地が非常に良いので、とりあえずサンプルで3本ほど輸入してみることにしました。お楽しみに。ご希望の方は予約受付中です。（25万円ぐらい予定）



木で作ったスプリングとラテックス+馬毛の組み合わせ。しっかりと、しっかりとした寝心地が最高

パリMaison&Objectインテリア雑貨見本市 ミッション:トレンドを探せ

パリ・シャルルドゴール空港近くで開催されるメゾン・オブジェはインテリア・ライフスタイルの総合見本市。インテリア・寝具、家具に加え多くのインテリア雑貨のブースが出ています。女性なら一番楽しい展示会でしょう。3つの展示会の中で、最もトレンドを意識させてくれます。4年ぶりですが、ずいぶんレベルが上がっています。かつてはトレンドゾーンと一般ゾーンで結構差がありましたが、一般ゾーンも見応えのあるブースが増えています。日本の出展者が多いのも特徴で、今年は90社におよぶ出展があり、ジェットロがかなりバックアップしているようです。面白い壁紙があるな、と思ったら京都西陣のメーカーでした。長浜の濱ちりめんなども出展すると良いのにと感じます。来場者もアジア人はハイムやケレンではチャイナ・コリアが多いのに対し、日本人が圧倒的に多いのが特徴です。ここは、マラゾット社のブースでカシミア毛布の商談を行いました。



移動の間に美術館と世界遺産の旅 アムステルダム国立美術館と

マウリッツハイス美術館

展示会と展示会の間は、毎年美術館と世界遺産を巡ります。今年メインはオランダ・アムステルダム国立美術館。レンブラントの「夜警」という絵が最も有名ですが、オランダ絵画の宝庫とあっていいでしょう。フェルメールもミルクを注ぐ女を始め3点揃いぶみ。お隣のゴッホ博物館も出身地だけあって見ごたえがあります。電車で1時間ほどのデン・ハーグにあるマウリッツハイス美術館には有名なフェルメールの真珠の耳飾りの少女があり、今回はフェルメール6点と出会うことができました。



レンブラントの夜警。大きい!



商売柄つつい
ゴッホのベッドルーム
のオルゴール



オランダといえば
チューリップとチーズ



観光の楽しみとは、街歩きであること ブルージュとストラスブール

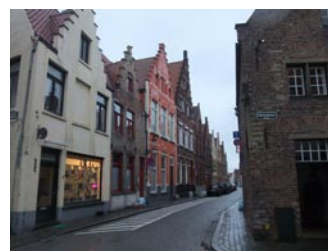
長浜は昨年、江・浅井三姉妹博覧会で非常に多くのお客様にお越しいただきました。ベルギーでも人気の観光地である古都ブルージュ、ドイツ国境に近いアルザス地方の古都ストラスブールは、いずれも中心市街地の大きさが長浜とよく似ています。感じたのは、街歩きの楽しさです。両方の街とも、古くからの街並みが残っているけど、あまり観光客が多くないという通りがあります。長浜でいえば南の方、田町や船町といった風情の残る場所というとおわかりいただけるかと思います。

そんな街並みの表情を楽しみながら、街歩きをするのが観光の楽しみ。長浜もイベントに頼るのではなく、本当に良いものをじっくり味わうことができる街にしたいものです。

ストラスブールは街の中心部にトラム(路面電車)を導入して、車の流入を制限した、まちづくりの上でも有名なまちです。



ブルージュの風車



ブルージュの観光客のない通り



↑ストラスブールのトラム
古くからの街並み→

